

淡海環境プラザ事業

淡海環境プラザのご紹介

●淡海環境プラザとは

当財団が管理運営しています「淡海環境プラザ」は旧県立水環境科学館の建物を活用して、下水道をはじめとする水関連技術の開発や普及、水環境ビジネスに関連した情報発信を行う施設として平成25年4月に新しくスタートしました。

開館以来、水処理技術に関する海外からの視察や国内自治体職員の研修、水処理技術関連企業の商談や社内研修などに活用されています。



国内自治体技術者の研修の受け入れ：展示室2

●展示施設等の充実

平成27年度は、淡海環境プラザ1階の展示室等をリニューアルし、水環境ビジネスに関わる企業等の皆様がより活用しやすくなるよう施設の充実を図ったところです。

まず、広いエントランスを活用して、最新の滋賀県の共同研究成果など水環境技術に関する情報掲示を充実させました。また、矢橋帰帆島メガソーラー発電所事業の関連事業でリアルタイム発電モニターも設置されました。



1Fエントランスホール

展示室1の公共展示室と展示室2の新技術等展示室は展示内容を充実させるとともにレイアウトを見直しました。

展示室3については大きく改装し、水環境ビジネスを支援するための独立したプレゼンルームや商談スペースを設置したほか、滋賀県が製作されたPR動画や水環境技術の検索ができるデータベースを紹介するコーナーも整備しました。



プレゼンルーム、パソコンデスク等を追加：展示室3

なお、同じ展示室内に、滋賀県も参画している国の水・環境ソリューションハブ（WES Hub[※]）について紹介するとともに、現在この取り組みに参画している11の自治体等のパネルも展示しています。

※水・環境ソリューションハブ（WES Hub）とは

日本の水・環境インフラの技術と政策を海外に積極的に提供していくため、国土交通省が平成24年4月に発足させたネットワークで、下水道分野で海外展開に先進的に取り組む地方公共団体等が認定されています。

【登録団体】東京都、横浜市、大阪市、神戸市、福岡市、北九州市、川崎市、埼玉県、地方共同法人日本下水道事業団、滋賀県、仙台市

●コーディネート活動の充実

オープンから4年目を向かえる平成28年度は、これまでの取組をさらに進めるため、新たに新技術普及促進と新技術開発支援のための専任職員を置くこととしました。



企業等の相談に対するコーディネート活動を強化するとともに、これまで以上に水環境技術に関係する企業等との連携を深めることより、滋賀県における水環境ビジネスの拠点の一つとしてご活用いただきたいと考えています。

JICA草の根技術協力事業（第1フェーズ）が終了しました

滋賀県と当財団がJICA（日本国際協力機構）「草の根技術協力事業」として平成25年から実施してきた「中国湖南省における都市污水处理場運転管理技術と住民の環境意識の向上のためのプロジェクト」が終了し、平成28年1月28日に湖南省長沙市にて事業の「成果報告会」が開催されました。

この事業は、湖南省の都市污水处理場の運転管理能力と下水道を使用する住民の環境意識を向上することで、污水处理場の処理効率や処理水質を改善すること目的としたものです。



平成27年度訪日研修

当財団は実施主体として、湖南省関係者を受け入れ訪日研修（3カ年で延べ16人）を実施したほか、財団の技術者を専門家として現地に派遣し、様々な技術指導を行いました。

成果報告会では、湖南省政府から高い評価をいただくとともに、これまでの取組に対して、感謝状が贈呈されました。



湖南省政府からの感謝状贈呈

当財団としても、今回の貴重な経験を活かして、今後も琵琶湖周辺で培ってきた水処理技術を活用した海外技術支援事業などに取り組んでいきたいと考えております。

淡水環境プラザの役割とウォーターバレー滋賀

滋賀県下水道課

【ウォーターバレー滋賀】

滋賀県では、昭和30年代後半からの高度経済成長に伴う産業活動の活発化、都市化の進展により、琵琶湖の水質が悪化しました。滋賀県では下水道をはじめとする行政による対応や規制だけでなく、県民、企業、大学等がそれぞれ問題解決に取り組んできました。その結果として、多くの技術やノウハウ・経験がこの滋賀には蓄積されており、これを「琵琶湖モデル」として推進し、日本で有数の「ものづくり県」として産業を振興し、水環境と経済発展の両立を遂げてきました。

また、本県には、水処理膜や上下水道用の管材や水質分析などの企業や研究機関等が立地をしています。この資源を活かし新たな水環境関連分野への進出や事業展開を推進するなど、水環境関連技術や企業、研究機能等の集積を目指した「ウォーターバレー滋賀」を推進しています。

【淡水環境プラザの役割】

淡水環境プラザは、旧滋賀県下水道公社が実施してきた高度処理の運転管理の経験を継承するとともに、各種研修会、講習会等を通じ、市町を含めた下水道に携わる技術者の技術力発展に資することを目的に整備しました。

また下水道分野での新技術に関する共同研究、実証実験フィールドの提供等を行う制度やプラザ施設内に水環境関係の技術、製品の展示が可能なスペースを設け、琵琶湖流域下水道に導入された新技術や共同研究を行っている新技術だけでなく、県内企業等の技術も併せて紹介していることから、水関連技術等の集積を目指す「ウォーターバレー滋賀」構想実現に必要な拠点の一つとなることが期待されます。

淡水環境プラザの施設、用地を含め下水道施設であり、下水道関連技術、下水道職員の技術力の維持・向上といった関連性が不可欠といった制約があるものの、関係機関との連携を密にし、構想の実現のため取り組んでいきたいと考えています。